

雲仙天草 国立公園

National
Parks
of Japan



国立公園とは



雲仙天草国立公園

国立公園は、日本を代表する自然の風景地として、自然公園法に基づいて国が指定するものです。
北は北海道から南は沖縄、小笠原諸島まで35の国立公園が指定されており、年間3億人以上が利用しています。国立公園内は、自然の絶景だけではなく、野生の動植物、歴史文化などの魅力の宝庫です。日本の国立公園は、森林、農地、集落など多様な環境が含まれていることが特長です。ほとんど手つかずの自然が残されているところがある一方で、自然と人の暮らしが織りなす地域の歴史や文化にふれることができます。
是非、実際に国立公園を訪れ、四季折々に変化する日本の美しい自然を満喫してください。

連絡先一覧

九州地方環境事務所

〒860-0047 熊本県熊本市西区春日2丁目10番1号
熊本地方合同庁舎B棟4F
| TEL | 096-322-2412 | FAX | 096-322-2447

雲仙自然保護官事務所

〒854-0621 長崎県雲仙市小浜町雲仙320
| TEL | 0957-73-2423 | FAX | 0957-73-2587

天草自然保護官事務所

〒863-0014 熊本県天草市東浜町10-1三貴ビル5階
| TEL | 0969-23-8366 | FAX | 0969-24-0730

雲仙天草国立公園サイト

<http://www.env.go.jp/park/unzen/>



火山情報をご確認ください

https://www.jma.go.jp/jp/volcano/map_6.html



表紙写真：千歳山から天草松島越しに見る雲仙岳



発行者：環境省
発行年：2025 年

※掲載写真の一部は、“島原半島の魅力～雲仙岳百景～フォトコンテスト”の応募作品を活用しています。
※見どころ案内マップは、指定区域の概要を示すために作成したものであり、誤差があることを考慮した上でご利用ください。

特長



湯けむり漂う雲仙岳と

島々連なる天草が織り成す“水陸の大展望”

本公園は、昭和9（1934）年に我が国最初の国立公園の一つとして誕生し（雲仙国立公園）、昭和31（1956）年には天草地域が追加されました（雲仙天草国立公園）。本公園の特長は、湯けむり漂う雲仙岳（温泉岳）の火山景観と、島々が連なる天草の海洋景観が織り成す、水陸の大展望です。雲仙地域は、20を超える山々から成る雲仙岳を中心とした島原半島の山岳地域で、三方の海とのセットで様々なパノラマが楽しめます。山名の由来である地獄の温泉をはじめ、火山活動を随所で体感できます。天草地域は、大小120の島々を含む多島海で、沈降海岸特有の湾入、陸繋島や海蝕崖など、海岸は変化に富み、海中ではサンゴ類も見られます。両地域は、「島原・天草一揆」で知られるキリスト教の歴史をはじめ、海外文化がいち早く到来した地域であり、史跡が多く見られます。また近年では、国立公園を核としながら両地域の成り立ちや恵みを知って楽しんで頂くために、島原半島では「島原半島ジオパーク」が認定され、島原半島の成り立ちなどの情報発信等を行い、天草においては「海にうかぶ博物館 あまくさ」として、天草の自然環境に関する学術調査や情報収集、情報発信等の活動が行われています。

【指定年月日】昭和9年3月16日 【面積】28,335ha 【関係都道府県】長崎県、熊本県、鹿児島県



次郎丸島から見た雲仙岳（島原半島）と天草松島の島々

成り立ち
巨人伝説



— 成り立ち —

雲仙岳を中央に抱える島原半島は、約40万年前までは火山島でした。約430万年前、半島南端の天草に最も近い早崎において、海底火山の噴火により火山島ができました。その後、小笠原諸島の西之島のように、噴火を繰り返しながら大きな島になっていきました。約50万年前には雲仙岳（雲仙火山）が形成され、噴火活動を開始し、約40万年前には噴出物が流れ下って九州本土とつながって半島となりました。その後、島原半島を南北3地域に分けるような東西方向の断層（千々石断層など）が形成され、その中央部は北部・南部に対して沈降し続けていく構造となりました（雲仙地溝）が、それ以降の噴火は地溝内に集中するようになりました。東西に並ぶ小浜温泉・雲仙温泉（地獄）・島原温泉も、地溝内の噴火活動の一環で形成されました。噴火のパターンとして、粘性の高いマグマが噴出し、こんもりした溶岩ドームを形成しては、やがて自重に耐えかねて地震などの際に崩壊する、ということを繰り返しながら、急峻で立派な雲仙岳が出来上がりました。有史以降の噴火活動は、少なくとも3回記録されており、江戸時代の普賢岳噴火に伴



雲仙岳をのぞく島原半島（手前）と天草諸島（奥）



急峻で立派な雲仙岳

断層の断層で生じた九十九島

— 巨人伝説 —

実は、島原半島各地や対岸の天草北岸には、「みそ五郎」という巨人の伝説が残っています。味噌好きの大男が農家や漁師のお手伝いをしながら地形を作り出す民話ですが、元々「未曾有or無双+御霊」という言葉が「みそorむそう五郎」に転じたこと、かつてないほどor並ぶ者のいないほど力を持った靈魂＝「雲仙岳の化身」と推察されています。みそ五郎による“お手伝い”は、雲仙岳の噴火による様々な恵みを表現したもの、というわけです。

水陸景観

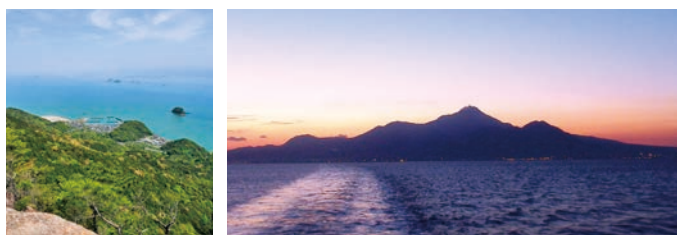


三方を海に囲まれた雲仙岳の登山道や車道からは、様々なパノラマが楽しめます。また、海からは優美な曲線のシルエットが心を捉えます。天草の多島海は、穏やかな海面と荒々しい断崖が対照的で、上島の東海岸沿いは、鋭い稜線がすぐ海に迫る山容から観海アルプスと呼ばれています。西は外洋の東シナ海に面し、東は九州各方面へのアクセスルートである有明海に面した島原・天草地域には、古来、様々な海外文化がいち早く到来し、花開きました。島原半島は、国内で最も早く（縄文晩期）稲作が大陸から導入された地域のひとつとされ、関連遺跡が点在しています。仏教も大陸伝来ですが、名僧・僧・行基によって大宝元（701）年に開山され（温泉山満明寺）、その後



雲仙岳から眺望した有明海と天草諸島

天草松島の多島海景観



観海アルプス

有明海から眺望した雲仙岳のシルエット

生態系



雲仙地域では、標高950m以上の落葉広葉樹林帯（本土で最西端）、600m以下の照葉樹林帯、600～950mの混交林帯の3つの植生帯が見られます。1000m級の普賢岳一帯では秋の紅葉が美しく、国の天然記念物「普賢岳紅葉樹林」に指定されています。普賢岳の平成噴火で誕生し、未だ植生がまばらな平成新山も国指定天然記念物です。地下から火山ガスが噴出する雲仙地獄では、硫化水素を含む火山ガスが熱せられた、温泉の生える湯だまりから、ツクシテンツキ、ススキ、シロドウダン、アカマツの順に距離をもって分布する様子が観察できます。また、かつての地獄の噴気が弱まってきたとされる原生沼には、ミスゴケ湿原が広がり、カキツバタやレンゲツツジなどが生育しています。野鳥の豊富な本地域では、夏にはオオルリやキビタキ、ホトトギスなどが多く渡来し、山にさえずりが響きます。また、冬には諏訪の池などにカモ類が多く渡来します。



普賢岳広葉樹林

平成新山



雲仙地獄

シロドウダン

オオルリ

に開山された比叡山・高野山とともに“天下の三山”と称されました。中世には、ヨーロッパからキリスト教が両地域に伝来し、布教と南蛮貿易の拠点として栄えました。キリスト教弾圧が始まると、雲仙地獄は信者拷問の場所となり、寛永14（1637）年には「島原・天草一揆」が勃発し、多くの住民が原城に立てこもりました（翌年、幕府軍によって鎮圧）。他方、雲仙岳の伏流水と有明海の塩で名産となった島原素麺は、中世に中国大陸から直接伝来した可能性が指摘されています。明治以降は、上海航路（上海～長崎）の開通と相まって、中国大陸駐在のヨーロッパ人などが避暑地として雲仙に來訪し、雲仙温泉街は日本初の海外向けリゾート地として、海外文化を積極的に受け入れました。



島原素麺



満明寺

雲仙温泉街

取り組み



— 雲仙地域 —

みなさまに安全に利用していただくため、環境省では登山道や園路のチェック、補修などを行っています。また、地域住民を主体とした「雲仙を美しくする会」や環境省登録の「パークボランティア」との協力により、国立公園内の主要スポットや沿道の美化清掃、自然観察会、外来種の除去など各種活動を行っています。

— 天草地域 —

国立公園の快適な利用のため、天草上島の千歳山や高舞登山、天草下島西海岸の各地で、清掃活動や除草作業を行っています。また、アカウミガメ保護のための基礎的な調査やデータ収集、産卵地保全活動なども実施しています。



仁田峠の清掃活動（パークボランティア）

国立公園の利用上のマナー

多くの方々に楽しく利用していただくために、国立公園内では自然を大切にすることを心がけ、次のことを守ってください。

ゴミを捨てないでください

花や植物を採らないでください

野生動物に餌を与えないでください

野生動物を獲らないでください

歩行中禁煙

たき火は指定の場所で行いましょう

ダイバーは漁業者に配慮して下さい

ダイバーは漁業者に配慮して下さい

天草の海には多くの種類のサンゴ類や熱帯魚類が息を、その美しさから海域公園地区に指定されています。しかし、その海は古くから漁業者が様々な魚を持って生計を立てている場所でもあります。ダイビングをする際は、事故を回避するためにも必ず漁業組合に届出し、指示に従うとともに、潜っているときにも漁業に十分配慮して下さい。また、海洋生物の採取はしないで下さい。

01 | 海から眺める雲仙岳

F2



三方を海に囲まれた雲仙岳は、海岸やフェリー航路から、海にぼっかり浮かぶ優美なシルエットが眺められます。シルエットは方角によって異なります。360°の多様な表情をお楽しみください。

02 | 03 | 奥雲仙・田代原と牧場の里あづま

D2



雲仙岳北面にある奥雲仙・田代原と牧場の里あづまは、かつて雲仙岳一帯に広がっていた牛馬の放牧草原の面影が今でも見られる場所です。6月には奥雲仙・田代原周辺が白いヤマボウシで彩られます。

04 | 島原にそびえる眉山

E2



雲仙岳東端の眉山は、島原の町の背後に屏風のように立っています。江戸時代に発生した斜面崩壊後の恵みとして、豊富な湧水や温泉(島原温泉)、良好な漁場・港湾が見られます。

05 | 仁田峠周辺から眺める海と雲仙岳

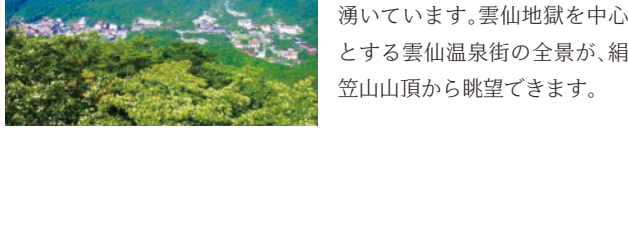
D2



島原半島の中心に位置する雲仙岳山頂部の仁田峠展望所は、登山の拠点であり、ロープウェイの始点です。登山道やロープウェイから眺められる海と雲仙岳の大展望が魅力です。

06 | 雲仙地獄と雲仙温泉街

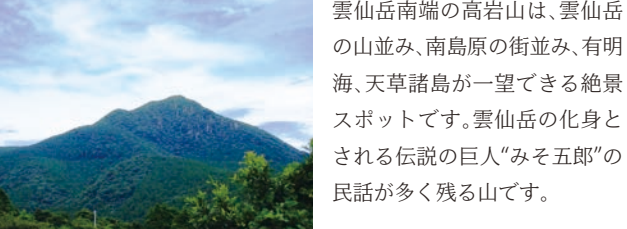
D2



雲仙岳(温泉岳)の名の由来となっている中腹の雲仙温泉は、火山ガスが噴き出す雲仙地獄に湧いています。雲仙地獄を中心とする雲仙温泉街の全景が、網笠山山頂から眺望できます。

07 | 南島原にそびえる高岩山

D2



08 | 雲仙岳を映す諏訪の池

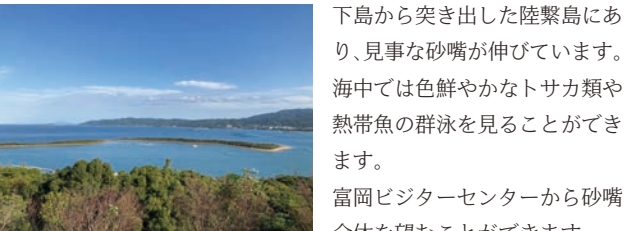
C3



断層地形を利用して江戸時代に造られた半島最大の農業用ため池で、雲仙岳の山並みを映す水鏡です。小浜温泉街からほど近く、周囲には棚田が広がり、身近な里地の自然とふれあえます。

09 | 曲崎

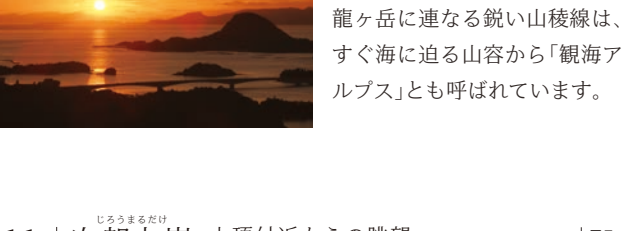
B5



下島から突き出した陸繋島にあり、見事な砂嘴が伸びています。海中では色鮮やかなトサカ類や熱帯魚の群泳を見ることが出来ます。富岡ビジターセンターから砂嘴全体を望むことができます。

10 | 高舞登山 展望台からの眺望

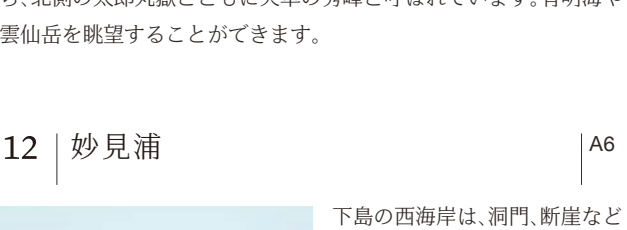
E5



多島海景観を眺望できる展望台があり、夕暮れの素晴らしい景色が楽しめます。また、高舞登山から龍ヶ岳に連なる鋭い山稜線は、すぐ海に迫る山容から「観海アルプス」とも呼ばれています。



東面が垂直に切り落ちた三角錐の山容と、山頂部の砂岩の巨石群から、北側の太郎丸嶽とともに天草の秀峰と呼ばれています。有明海や雲仙岳を眺望することができます。



12 | 妙見浦

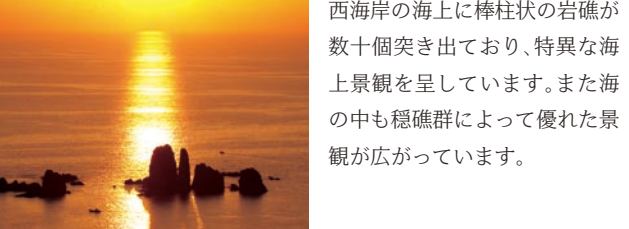
A6



下島の西海岸は、瀬戸、断崖などが連続する豪壮な海岸景観を呈しています。中でも妙見浦の「妙見岩」は南側から眺望すると象の形に見えることで有名です。

13 | 大ヶ瀬

A6



14 | 崎津教会

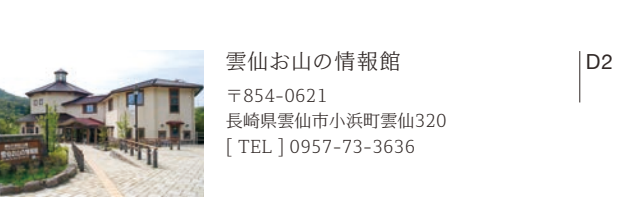
B7

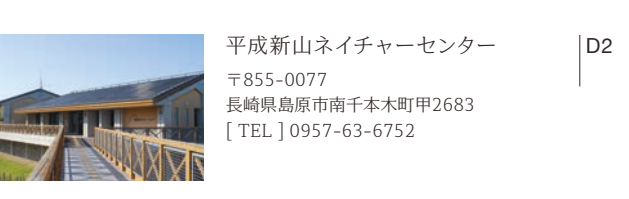


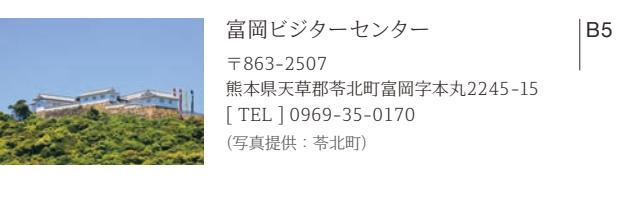
キリシタンの歴史を物語る教会です。敷地内は公園区域外ですが、複雑に入り組むアス式海岸の一角にたたずみ、国立公園の自然景観に文化的なアクセントを加えています。

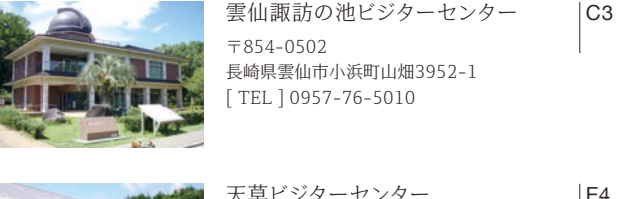
(※平成30年6月、「長崎と天草地方の潜伏キリシタン関連遺産」)

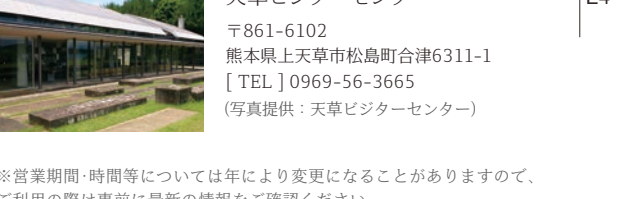
Information	施設案内
-------------	------

	雲仙お山の情報館 〒854-0621 長崎県雲仙市小浜町雲仙320 [TEL] 0957-73-3636	D2
---	---	----

	平成新山ネイチャーセンター 〒855-0077 長崎県島原市曲千本木町甲2683 [TEL] 0957-63-6752	D2
---	--	----

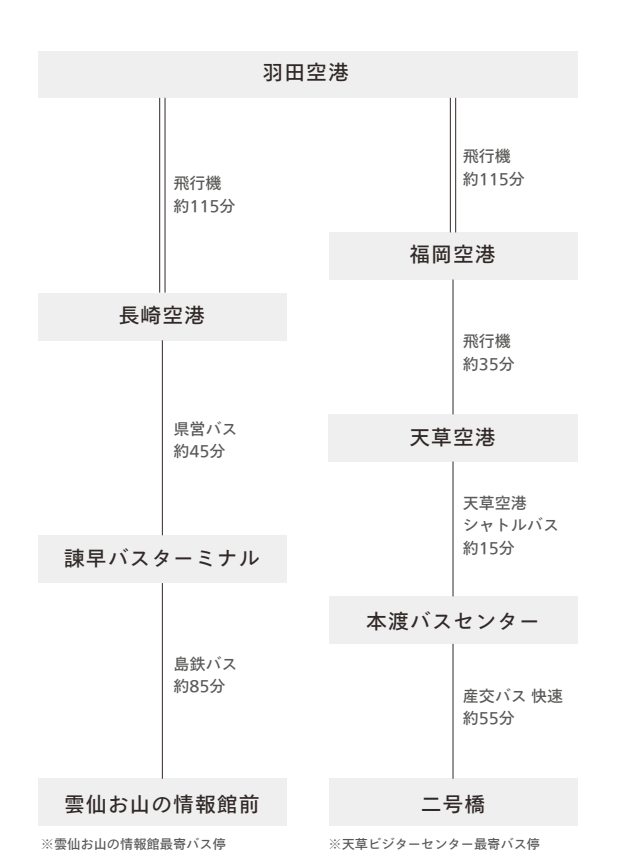
	富岡ビジターセンター 〒863-2507 熊本県天草郡等北町富岡字本丸2245-15 [TEL] 0969-35-0170 (写真提供：等北町)	B5
--	--	----

	雲仙諏訪の池ビジターセンター 〒854-0502 長崎県雲仙市小浜町山崎3952-1 [TEL] 0957-76-5010	C3
---	--	----

	天草ビジターセンター 〒861-6102 熊本県上天草市松島町合津6311-1 [TEL] 0969-56-3665 (写真提供：天草ビジターセンター)	E4
---	--	----

※営業期間・時間等については年により変更になることがありますので、ご利用の際は事前に最新の情報をご確認ください。

Access	交通アクセス
--------	--------



※アクセスルートは一例です。各区域の所要時間は目安です。詳しくは各交通機関の窓口・ホームページなどでご確認ください。



※詳細な区域確認等に当たっては、担当の環境省自然保護官事務所等に問い合わせてください。